

2020年5月8日

ご自身の命を、大切な方の命をお守りください

立命館慶祥中学校・高等学校

校長 江川 順一

新型コロナ（COVID-19）に対応されている生徒の皆さん、そして保護者の皆さま、立命館慶祥中学校・高等学校を代表して、皆さまのご健康と命の安全を心から願っております。

ゴールデンウィークが終了しました。本来、心と身体を休めるべき黄金週間でした。例年ならば、会社で働いていたり、学業のために道外の学校に通学していたりという家族が一堂に会し、互いにゆったりと近況報告などして「かけがえのない時間」を過ごしておられたはずです。黄金週間を終えて、家族とともに満ち足りた時間を過ごした後は、それぞれの持ち場に戻り、心機一転、日常を再開することが、この時期の私たちの習慣だったと思うのです。

しかし、新型コロナ禍によって黄金週間は「STAY HOME 週間」となり、家族の団らんどころか、単身赴任先や学生下宿からの帰省がままならず、会えずじまいだったというご家庭もあったのではと思います。加えて、収入が半減したり、休業を余儀なくされたり、あるいは業態そのものがなくなってしまう危機に直面したりという方もおられることと推察しております。

政府は、新型コロナの猛威が国民生活や国民経済に甚大な影響を及ぼす恐れがあるとして、1ヶ月前に緊急事態宣言を発出し、宣言期間を5月6日までの1ヶ月に限定した「短期決戦」への国民の協力を呼びかけ、さらに5月4日、緊急事態宣言の対象地域を全国としたまま、5月31日まで延長することを決めました。北海道はじめ、京都府、大阪府、福岡県など13都道府県については「特定警戒都道府県」として、これまで同様の制限を求めています。5月7日現在、北海道の感染者数の累計は928名、同じく札幌市は567名。7日のみの感染者数については、北海道14名、札幌市9名。決して油断することはできません。

立命館慶祥中高は、生徒の皆さんの健康と命の安全を第一に考え、5月1日段階で、5月末までの在宅学習の実施を決意しました。私どもの中学生や高校生の、4月に入ってからの登校日は、各学年1度ないしは2度のみです。中高のそれぞれの新入生にあっては、新しいクラスの仲間と対面した機会は、たった2日間なのです。私たち教職員は、新入生も在校生も、さぞ登校したい気持ちで一杯であろうと心を痛めております。スタッフルームで教員が寄ると触ると、生徒たちにしてあげられることは何だろうか、今できることは何だろうか、談論風発（三密を避けながら）、さまざまなアイデア出しを行い、検討を重ねています。

この間、学校は、課題配信型とオンライン配信型とを組み合わせた授業を実施して来ましたが、これらをさらに発展させ、オンデマンド授業やライブ授業を積極的に取り入れ、インターネットを介したWeb授業を行い、5月末まで在宅学習を実施します。インターネットを介しても、授業の質を維持し、生徒の皆さんが学びの到達目標を達成できるよう、全力を尽くします。

本校 HP にても紹介しました、4 月 27 日付けの学校法人立命館の仲谷善雄総長メッセージにありますように、立命館学園は、新型コロナ禍に対し、「3 つの緊急支援」を決断しました。対象は、法人が設置する大学・附属校で学ぶ学生・生徒・児童全員の約 5 万人。もちろん、慶祥生 1,539 名も含まれます。総長メッセージは、以下の URL です。

<http://www.ritsumei.ac.jp/news/detail/?id=1730>

1 つ目は、「Web 授業のための受講環境整備支援策」です。オンライン授業の本格的な実施にあたり、緊急的に Web を活用した授業実施となることに伴い、生徒の各家庭における通信環境整備への負担軽減のため、一律 3 万円を支給するものです。支給方法については、決まり次第、速やかにお知らせします。

2 つ目は、「家計急変等支援策」です。新型コロナ禍に伴うご家庭の家計急変に対応し、本校でもすでに導入している授業料減免制度の充実を検討しております。こちらについても決まり次第、速やかにお知らせします。

3 つ目は、「オンラインを活用した学習・生活・諸活動支援策」です。生徒の学習面や生活面を含めたオンラインサポート体制を整備するものです。通信環境が整わない家庭の希望者に対して、PC やルーター等の無償貸与を行うものです。ルーターについては、120 台が学園から昨日届いたので、早速貸し出し手続きに入り、11 日発送の全保護者への定期郵送物に案内を入れるとともに、HP にも掲載します。

新型コロナへの対応は、「新型コロナ」以前と以後とを比較するならば、考え方が異なり、価値観が変わることを考えると、令和のパラダイムシフトと言っても過言ではないと思っています。

私は、漢文を専攻した国語の教員ですが、私の好きな言葉に「^{きゅうしゅ}鳩首協議」という語があります。「鳩首協議」の意味は、鳩が首を寄せ集めるように、人々が集まり、額を寄せ合って相談すること（三省堂・大辞林）です。あたかも餌に集まるたくさんの鳩のように、首を寄せ合って熱心に相談するという豊かな水脈を持つ言葉が、「新型コロナ」以後、おそらくは金輪際、使われなくなるだろうと思われれます。「鳩首」がどうしても「三密」のイメージを避け得ないことから、新型コロナ禍の忌まわしい記憶を呼び覚ましてしまうためです。「新型コロナ」以後には、言葉の世界も変化を余儀なくされるのです。

歴史学者のユヴァル・ノア・ハラリ氏が、4 月 25 日に放映された NHK の番組で述べていました。

「この感染拡大が究極的に何をもたらすのか、決まっていません。結末を選ぶのは私たちです。もし自国優先の孤立主義や独裁を選び、科学を信じず、陰謀論を信じるようになったら、その結果は歴史的な大惨事でしょう。多数の人が亡くなり経済は危機に瀕し、政治は大混乱に陥ります。一方でグローバルな連帯や民主的で責任ある態度、科学を信じる道を選択すれば、後になってみれば人類にとって悪くない時期だったと思えるはずで。私たち人類はウイルスだけでなく、自分たちの内側に潜む悪魔を打ち破ったのだ、憎悪や幻想・妄想を克服し、^{しん}眞実を信頼し、強く団結した種になれた時代として位置づけられるはずで。」（一部略）

ハラリ氏が述べるように、医療従事者への偏見、他県ナンバー狩りなど、私たちの「心の中にある悪魔」に惑わされることなく、科学的な判断により、民主的で責任ある態度を選択しなければなりません。

私たちは、価値観の変化を恐れず、一致団結して正しい行動を続けるとともに、新型コロナ禍の収束（あるいは共存）を見詰め、静謐な態度で臨みましょう。それまでの間、生徒の皆さん、保護者の皆さま、皆さまご自身の命を、そして皆さまの大切な方の命をお守りください。